

PORT ISLAND

ポ ー ト ア イ ラ ン ド ・ リ ボ ー ン プ ロ ジ ェ ク ト

Reborn PROJECT



みんな で つ な ご う、
あ た ら し い 島 へ。

PORT ISLAND Reborn PROJECT CROSS TALK

神戸市長
久元 喜造

東京藝術大学准教授／RFA主宰
藤村 龍至

PROFILE

1954年神戸市兵庫区生まれ、
1976年東京大学法学部卒業、同年旧自治省入省。
内閣審議官、総務省選挙部長、同自治行政局長などを経て、
神戸市副市長。
2013年に神戸市長に当選、現在3期目。
2022年4月指定都市市長会会長に就任。

PROFILE

1976年東京生まれ。（父は神戸市灘区出身）
2005年より藤村龍至建築設計事務所（現 RFA）主宰。
2016年より東京藝術大学准教授。
2017年よりアーバンデザインセンター大宮（UDCO）副センター
長/ディレクター、旭山町コミュニティ・マルシェ総合ディレクター。
建築家として公共施設等の設計に関わりながら、さいたま市、
埼玉県所沢市、鳩山町、愛知県岡崎市、台東区上野などで中
心市街地や計画住宅地の活性化に関わる。神戸市では「ポート
アイランドの将来像研究」をきっかけに「ポートアイランド・リ
ボーンプロジェクト」に関わる。「神戸医療産業都市の将来像
についての検討会」委員。

かつての未来都市は、生まれ変わって、新たな未来へ歩み出す。

神戸空港の国際化や 大阪湾岸道路の延伸で 大きく変化していくポートアイランド

久元 最近、高校生との意見交換で「私、ポートアイランドに住んでいます。飛行機の離着陸が間近に見えて、緑は意外と多い、とても住み良いまちですよ」と言われて、とてもうれしく思いました。一方で以前から現状に満足してはいけなと思っており、ポートアイランドは、医療産業都市や国際コンテナ戦略港湾、スーパーコンピュータ「富岳」、複数の大学が立地するなど、機能としては非常に高度ですが、もっと多くのひとが来てみたいと思うようにまちの魅力を高めたいと考えていました。時間をかけてでも、島に住み、働き、学んでおられる方々などと議論をして、まちびらきをした頃の輝いていたポートアイランドを蘇らせたい。そんな想いから、ポートアイランド・リボーンプロジェクトを打ち出しました。

藤村 今回の島に欠けているのは、公有地・民有地を一貫したコンセプトのもとにマネジメントする機能だと感じています。1971年のポートアイランドの都市計画に携わっていた水谷 顕介氏の元にいた都市計画プランナーの小林郁雄氏と島内のフィールドワークをしたときに「計画当時の構想はさまざまな形である程度実現したけれども、まち全体を管理運営するという『総合業務センター』だけが実現できなかった」とおっしゃっていました。それは今日で言うと、「エリアマネジメント」という言葉になるのですが、まち全体での人材の発掘や遊休地や公共空間を活かす試みなどの動きをリボーンプロジェクトでつくっていき、まちの魅力を引き出していきたいと考えています。

久元 リボーンプロジェクトを打ち出したきっかけは、神戸空港の国際線就航や大阪湾岸道路西伸部といったポートアイランドを巡る外部環境の変化にあります。神戸空港では、想像を超えるスピードで利活用が進んでいます。令和7年4月18日

には第2ターミナルビルがオープンし、定期便に近い形で韓国や中国、台湾と、そしておそらく今後、それ以外のアジア諸国との間でも国際空路が開かれることになります。これは非常に大きな変化です。さらに、大阪湾岸道路がつながれば陸・海・空の交通インフラが飛躍的に整備されていきます。

藤村 ポートアイランドがまちとして一体感を感じられるような取り組みを進めたいですね。まちびらきした当初の1980年代に設定された「ファッションタウン」の地区計画には「国際性、情報性、文化性及びファッション性等の多様な土地利用を誘導する」と謳われていて、神戸らしさを世界に発信するという非常に高い目標が掲げられています。当時は進出企業のトップどうしが「まちをつくろう」と声をかけあって、みんなで一緒にポートアイランドへ進出してきたそうです。その当時の熱に惹かれて会社に入ったひとたちはまだいらっしやるので、その方々に共感してもらえる取り組みをしていきたいと思っています。他方で2期に立地する企業の皆さんは既に国際的に事業を展開していて、どんどん新しい動きが出てきていますが、もっとつながりをつくりたいなど、新しい課題も出ています。

久元 まちびらき当初からポートアイランドに関わっておられる方、2期に立地する企業などの方、島内の大学、高校に通っておられる学生の皆さんをはじめ、いろいろな立場や分野の方々と大いに議論をして、ポートアイランドの将来の姿を描いていただきたいと思います。



取り組むのは未来都市の「再未来化」 島の緑やまちの骨格をいかして 甦らせること

藤村 ポートアイランドは、未来都市として誕生しました。未来都市の近未来をもう一度描くためには、近過去の検証が必要だと思っています。1980年のまちびらき当初から島に関わっておられる方は減り、新しく島に来られた方が語るポートアイランドの姿は当然違いますし、未来に向けてもう少し多面的に語り合いたいところです。これまでに神戸市が開催したポートアイランド・リボーンシンポジウムや地域と連携した社会実験「PORTOPIA DESIGN WALK 2024（ポートピアデザインウォーク）」を通じて、ポートアイランドの将来像について意見交換する場を立ち上げてきましたが、このようなエリアマネジメントの取り組みをどのような形で、まちづくりの仕組みにしていけるかが今後の課題だと思っています。

久元 今お使いになられた近過去という言葉は、ポートアイランドの成り立ちと特徴をひと言で言い当てていると思います。神戸は1868年に開港してから出来上がった、日本の大都市の中では比較的新しいまちではあるものの、現在再整備を進めている都心三宮は100年以上の歴史があるなど、複雑で入り組んだ過去があります。一方で、未来を志向した海上文化都市として誕生したポートアイランド40数年の歴史はまさに近過去で、まだまちびらき当時を知る人々も第一線で活躍しておられます。過去・現在を思い描きながら、未来を想像することができる場所だと感じています。

藤村 このプロジェクトで取り組むのは、未来都市の「再未来化」です。ただ一方でこれからはさまざまな社会課題に直面します。直近ではまず高齢化の問題、いずれ建築物の老朽化の問題が生じ、まちは空洞化していくことが予想されます。こういった課題を抱える大都市郊外の計画住宅地はたくさんありますが、ポートアイランドには神戸空港の国際化や大阪

湾岸道路西伸部の整備といったまちづくりの原動力になる事業がいくつかありますので、それらの個別の事業をエリア全体でコーディネートすることで「再未来化」は可能だと考えています。

久元 ポートアイランドは今、起こっている高齢化や少子化といった問題がある程度見越して未来をつくったのか、あるいは予測を超える変化に直面しているのか。未来を再未来化するということは、そういった今起きている現在を照射することでもあるので、そこに光を当てながら課題を解決する糸口あるいは処方箋がプロジェクトのなかで生み出されることができれば、神戸だけではなく他の地域が抱えている問題に対する解決のヒントを得られるということにもつながるのではないかなという気がします。

藤村 全国でいろいろなまちに入って思うことは、まちの活性化は、まちの特徴を掴み、その特徴をうまく活かして新しいムーブメントの原動力にするというのが基本線で、例外はありません。ポートアイランドであれば例えばポートピア大通りの緑道沿いに緑の骨格があります。ただ建築の視点でよく見るとせっかく緑道沿いに大きな緑陰が広がっているにもかかわらず、その下で過ごすベンチやカフェなどの居心地の良い場所が空間として確保できていませんでした。「PORTOPIA DESIGN WALK 2024」では、道路上で地域の住民や学生がダンスや演奏などを行うだけでなく、隣接する緑道の斜面地の草を刈って過ごせるようにし、居心地をよくする実験を行いました。実はこの斜面は、宮崎市長時代に「ポートピア大通りはサンバカーニバルを開催するフラワーロードのようなシンボルストリートにするべきだから、その残骸になるように」という考えて設計されたそうなのですが、これまでどのように使われることもなく、いつの間にか樹木が繁茂し、見通しも悪くなっていました。今回の社会実験をきっかけに手を入れていただいたので近過去で描かれたポートアイランドのまちづくりの理想像や理念を取り戻しながら、緑のもとでみんなが集ま

る公共空間を作るという近未来を描くことができました。このようにまちの空間の特徴や可能性を活かす取り組みを積みあげていくことで、いろいろな可能性を広げていけるのではないかと感じています。

久元 緑というのは、リボーンプロジェクトを考える上で非常に大きなテーマです。残席席の実現のようなまちづくり当初の理念を蘇らせるということは近過去を未来化するというですし、非常に良いことだと思います。緑の再生、あるいは緑を増やすという取り組みに多くの企業や、市民の皆さん、あるいは来街者の皆さんに参画してもらうことができれば、リボーンプロジェクトにとって非常に有力な切り口になるだろうというふうに感じます。

島に住み、働き、学ぶひとたちが 一緒になって 未来へと発展できるポートアイランドへ

藤村 まちの近未来を描くときには、大体3年目ぐらいのタイミングで少し具体的な絵を描いていくとうまく動き出すと思います。そこで行政と民間との関係性が重要になるのですが、1980年代に「ファッションタウン」を実現した際には1973年に神戸商工会議所と神戸市が共同で「ファッション都市宣言」を打ち出したことがきっかけでした。リボーンプロジェクトも、もう一度民間と神戸市と一緒に議論をして新しいコンセプトやビジョンを打ち出していくフェーズではないかと思っています。

久元 開発当初はゼロからの出発だったので、発展の鍵となるために神戸商工会議所が参画をしてくれたかと思うのですが、現在では、2期の医療産業都市も我が国を代表するバイオメディカルクラスターとなり、島内の企業や大学などの集積が進んだ今、ポートアイランドに関わる住民、企業をはじめとする島内関係者の方々と意見交換を前提とした、経済界との



連携ということが現実的ではないかなと感じています。

藤村 ポートアイランドでのまちづくりの話し合いに参加する中で気がついたことは、通常の行政と住民や企業との対話と雰囲気異なることです。これは公共デベロッパー方式を進めていた「株式会社神戸市」の名残だと思うのですが、ポートアイランドの住民や企業にとって神戸市は行政というより「デベロッパー」になっていて、まちの「生みの親」に意見を述べているように感じることがあります。これを一回解いて、これからはパートナーという関係で、未来に向けてどう取り組んでいくかを考えることがポートアイランドの発展にとって重要だと思っています。

久元 パートナーという関係は、まさにその通りだと思います。大きく社会が変化し、かつてのデベロッパーとしての神戸市ではなくて、コーディネーターあるいはプラットフォームを提供する役割を市が果たしていく方向に転換をしていくための大きなアプローチがこのポートアイランド・リボーンプロジェクトではないかということを今、再認識させていただいたような気がします。

藤村 そのために、住民や企業、大学などの皆さんがパートナーと一緒にやって将来ビジョンづくりや課題解決をしていける、エリアプラットフォームをつくっていき取り組みを進めていますので、今後ともサポートをいただければと思います。

（この対談は2025年1月に実施されました）

ポートアイランド・リボーンプロジェクトとは



神戸空港の国際線就航、

大阪湾岸道路西伸部の開通など、

近未来に向けてカタチをかえるポートアイランド。

その未来に向けて、島内で暮らすひと、学ぶひと、

働くひとがいっしょになって

島の魅力を育てるプロジェクトです。

まずは社会実験などに取り組みながら、

まちの将来ビジョンを策定していきます。



提供: 東京藝術大学藤村研究室

「港の島を、結び直す」

再整備で生まれ変わった三宮へ、空港からアジアへ、湾岸道路で大阪や播磨エリアへ。
ポートアイランドとまちの結び直しをめざします。

さらに島内のまちとひと、自然を結び直すことで、あたらしい島の魅力をつくっていきます。



これまでの取り組み

まちあるきスタディ

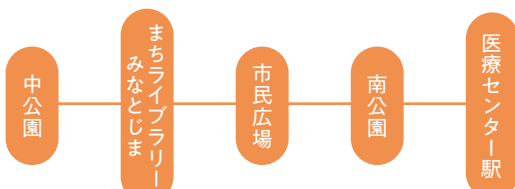
ポートアイランド

2024.2.10

島内のパブリック・スペースを中心に有識者と市民の皆さんがいっしょにまちを歩きながら、まちの課題や将来像の方向性を意見交換するワークショップを開催しました。



まちあるきルート



ワークショップ

- 主な意見
- 人々が交流できる場（カフェやマルシェ）が欲しい
 - マーケットや食事ができる場所があると良い
 - 若い世代や、子どもとその親同士が交流できる場所が欲しい
 - ポートライナー高架下の空間を活用するべき

ポートアイランド・リボーンシンポジウム 2024

2024.3.4

2023年度の取り組み成果の共有と、2024年度以降の取り組みやめざすべきまちづくりの方向性について意見交換を行うことを目的に、シンポジウムを開催しました。



神戸学院大学 現代社会学部
社会防災学科 准教授

江田 英里香 氏

このまちの財産は、住民、学生、企業などがアイデアやスキルを持っていることだと思う。島内のイベントの情報共有できるツール（ためまっふボーイ）を神戸学院大学生が企画作成しており、このようなツールを活かしていきたい。

交友印刷株式会社
代表取締役

杉本 浩康 氏

ポートアイランドは、広い区画があり働きやすい一方で、住民や学生と交流する機会がなく、働くだけの場所になっていることが課題だと感じている。企業間の交流を増やすことも大切ではないかと思う。

パネリストの声 ※肩書きは2024年3月4日時点のものです

株式会社神戸ポートピアホテル
取締役 執行役員 総支配人

伊藤 剛 氏

ひとが集まる場所であるものの、商業施設などがないため、検討する必要があると考えている。島内の企業を通じてポートアイランドの魅力を発信するなどして、うまく新しい企業を誘致し活性化できるのではないかと感じている。

八十島プロシード株式会社
神戸支店 支店長

久保 拓也 氏

医療産業都市にある企業として、企業間連携で更なるイノベーションをつくり出していきたい。まずは若いひと同士が関係を築き、そこで刺激を受け、新しいものを生み出していくのがゴールだと考えている。

港島自治連合協議会 会長

村上 富哉 氏

海の中に島があるのに、海が感じられない。川・池・公園も少なく、ゆったりと過ごすような場所が欲しいという意見も聞いている。ここで生まれ育ったひとが戻ってくるような立派なまちにしていきたい。

2024.10.26-12.09

島内の飲食環境の改善や、人々の交流機会を創出することを目的に、40日間限定でシェアキッチンで営業する社会実験を実施し、多くの方にご利用いただきました。



南公園ステーションキッチンの狙い

- 01 ポートアイランド内のランチ環境の改善
- 02 地域のひとたちの交流機会の創出
- 03 ポートアイランドのまちの魅力を再発見

出店者
ラインナップ



神戸六甲弁当



アンコムチュア
【舞屋バインミー】



Mr. Shrimp



Bonvivant &
AITANA WINE



みなとじまキッチン



Barbacoa Kobo 118



COFFEE kinenbi



Mugi-cafe

PORTOPIA DESIGN WALK 2024

～ポートピア大通りヒロバ化実験～

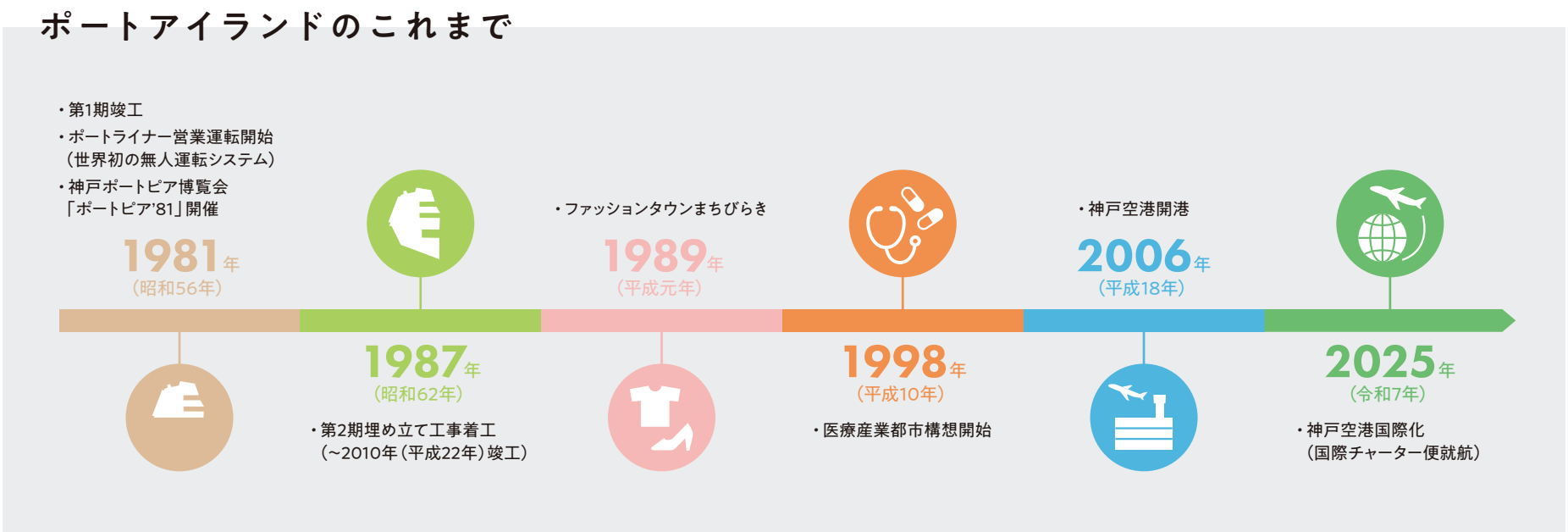
2024.11.3



ポートピア大通りと緑道を一体化したウォカブルな公共空間を創り出す「ポートピア大通りヒロバ化実験」を開催しました。大通りでは地域の学生とパフォーマーによるダンスや演奏、キッチンカーでの飲食販売。緑道では物販や体験型イベントなどを実施しました。同日には市民広場で神戸市内・近郊の生産者による「山、海へ行くマーケット」を開催し、ポートピア大通りや、その周辺の公共空間を活用し、地域課題の解決を図るための試みを行いました。

What's PORT ISLAND Reborn PROJECT?

もっと魅力が集まる島へ。 未来への取り組みは、もうはじまっています。



ポートアイランド・
リボーンプロジェクトに
関する詳しい情報はこちら →



KOBE